

第5回とやまの森づくり推進方策・財源検討委員会発言要旨

1 報告書全般について

- ・ パブリックコメントで出された意見なども反映しており特に意見はない。また、税の名称についても、委員会の意見を踏まえて対応されたことを評価したい。
- ・ 長い期間をかけて検討してきたものがようやく姿が見えてきた。ことに、パブリックコメントや県民説明会を通じて県民の意見が集約されたことは意義のあることである。問題は、このあとであり、計画に基づきしっかり進めてほしい。
- ・ パブリックコメントでは多くの意見が出され、県民の関心が高いことが伺えた。また、森林所有者からの意見では、森林に関する問題の深刻さを改めて感じた。今後の森づくりの実践にあたって、より多くの県民に関わってもらうためにも、支援する体制をしっかりと組んでほしい。
- ・ これまでは森づくりに直接関わることはなかったが、この検討委員会を通じて富山の森林の実情を勉強させてもらった。今後は、税が導入されたことで、若い人たちにも森づくりに関心を持ってもらえるような活動をお願いしたい。また、幼少の頃から森づくりに関心を持てるような方策を望む。
- ・ パブリックコメントでは、森林資源の持続的な利用についても関心が高かった。木材をもっと活用し、森林が活性化するような支援にも力を入れてほしい。
- ・ 今回の委員会を通じて、公益的な意味での税の必要性を学んだ。税の意義などを幼少の頃から考えてもらうには良い制度だと思うので、税の使われ方などもしっかり PR してほしい。
- ・ 条例の制定にあたっては、より富山県らしさを盛込む工夫がほしいと思う。
- ・ 条例が制定され、税が導入されれば、森づくりの大枠はできることになるが、パブリックコメントにもあったように、税の使い方の透明性確保が重要である。使いみちやその評価の反映がしっかりしていないと、良い制度であったとしても大きく育たない。
- ・ 日頃から「川上がしっかりしないと川下はダメになる」と言っているが、あらゆる機会を通じて、住民の皆さんにご理解いただけるよう説明したい。
- ・ 市民や県民が、森づくりの意義や位置付けを理解し、末永く後世に伝わる施策が必要である。市町村としても県と協調して進めていきたい。
- ・ 多岐に渡り、県民からの意見も反映して良い報告書になっている。これにより、地域の山が活性化し、また、身近な生活の中で地域材に触れられるよう期待したい。

- ・ 報告書の作成にあたって、非常に手厚い手順を踏まれたことを高く評価する。県民運動として一過性とならないよう、シンボリックな施策を提案されるよう期待する。

2 市町村森づくりプランについて

- ・ 市町村森づくりプランの策定にあたっては、市町村それぞれの森林整備のあり方に対する考え方が反映されるよう、県として十分な支援をお願いする。
- ・ 市町村からは、具体的な取組のイメージが掴みにくくどうすればよいか分からないとの意見も聞こえる。県には、形にとらわれず、地元の意見をうまく集約した中身のある森づくりプランができるよう、サポートをお願いしたい。また、協働会議などの運営にあたっては、NPO など民間団体のノウハウも活用されたい。

【会長集約】

報告書としてはこれで了承したい。また、報告書のまとめから引用した提言を、報告書とともに知事に渡すこととしたい。この報告書をまとめるに至った背景には、多くの県民から森づくりへの熱意が示されたことがある。

今後は、この報告に基づきどのように森づくりを推進するかが重要となってくるが、委員の皆さんにも、今後も森づくりにおいてそれぞれの役割を果たすようお願いしたい。